

# 未来にはばたけ 希望の九小



令和4年11月30日(水)  
府中市立府中第九小学校  
校長 生井 信太郎

## 共に味わう芸術の秋

副校長 奥井 寿美子

展覧会が3年ぶりに開催されました。運動会から3週間というタイトなスケジュールではありながら、楽しそうに作品制作に取り組む子供たちの姿が微笑ましい11月でした。

入場時間を学年ごとに指定させていただいていましたが、予想以上の人数でご来賓の皆様、保護者の皆様にご来校いただきました。感謝申し上げます。

最終日の19日は非公開の授業日と並行して開催されていましたが、午前中は保護者の方だけで、午後はお子さんと一緒に鑑賞されている方が多く見られました。6年生の女の子が恥ずかしそうに「ここ、うまくいかなかったんだよ」とお母さんに話すと、「そんなことない。この部分、とってもよくできているじゃない」と優しく話すお母さん。小学校最後の作品を見ながら交わす素敵なやりとりに心が温まりました。

展覧会の様子は今月号の特集にもなっておりますので、是非紙上でもお楽しみいただければ幸いです。

人権尊重教育推進校としての取り組みも、着々と進んでいます。全学級で人権教育の視点を取り入れた授業を行い、研究を深めています。その中でも共に作品作りをする取り組みがありました。

1年生の生活科「おかしからつたわるあそびをたのしもう～おりがみをおろう～」の授業です。いつもお世話になっている「放課後子ども教室 けやきッズ」の方をお招きして、折り紙を教わりながら、地域の方々と触れ合うことよさに気付くという目標の授業でした。校内だけでなく、子供たちが関わる全ての人々の人権を尊重する、という構想のもと、地域の方々とふれあいを大切にする取り組みの第一歩でした。授業が始まると「あ！〇〇さん！」と嬉しそうな子供たち。タブレットで提示された作り方を見ながらも、分からないところを優しく教えてもらって嬉しそうでした。授業の最後の振り返りでも、その点に気付いていた児童が多く、「難しそう、と思っていたけれど、教えてもらって安心した」とその活動のよさを実感する感想が出ていました。

小学校の図工作品や、折り紙などの工芸作品は、美術・芸術という枠組みでとらえると正確には違う部分が多々あるようなのですが、共に作品を制作し、鑑賞し、味わうという活動が、これからの子供たちの豊かな成長に、静かに響くであろうことが垣間見える秋でした。

今年最後の1か月もどうぞ引き続きよろしく願いいたします。